



教育委員コラム

発行元
弟子屈町教育委員会
委員長 小澤 重
職務代理 榎本 悅子
委 員 菅原 誓之
委 員 金井 秀明
教 育 長 小林 俊夫



弟子屈町教育委員会
〒088-3292 北海道川上郡弟子屈町中央2丁目3番1号 弟子屈町役場
電話:015-482-2945 HP:<http://www.town.leshikaga.hokkaido.jp/>

教育委員リレーコラム

《 昭栄小学校の閉校 》

教育長 小林俊夫

11月16日、町理事者や町議会議員、教育委員の皆さんをはじめ、多くの南弟子屈自治会地域住民の皆さんや学校関係者の皆さんなど約160名の方々が出席する中、弟子屈町立昭栄小学校の「閉校式」と「感謝の集い」が行われました。来年3月31日をもって昭栄小学校は96年の歴史に幕を閉じ、新年度から児童の皆さんは、弟子屈小学校に通うことになります。本町の閉校事業は、平成6年に閉校した仁多小学校以来20年振りのこととなりました。

昭栄小学校内ホールで行われた「閉校式」は、小澤重教育委員会委員長の「閉校宣言」の後、徳永町長の式辞、そして小澤重委員長から70周年記念事業以降の歴代校長に感謝状が贈呈されました。また、小澤重委員長と吉田裕幸昭栄小学校閉校事業協賛会長から各々児童5名に記念品が贈られました。続いて、来賓として出席を頂いた宇田賢治北海道教育厅釧路教育局長と八幡豊行弟子屈町議会議長から挨拶を頂きました。

そして、高田孔平昭栄小学校長と高橋和憲昭栄小学校PTA会長の挨拶の後、在校生を代表して三田村優音児童会長が挨拶に立ち、その挨拶に誰もが胸を打たれ、ひと際大きな拍手が送られました。最後に統合先の阿部典弟子屈小学校長から歓迎の挨拶があった後、全員で昭栄小学校校歌を齊唱し、滞りなく「閉校式」を終了することが出来ました。

多くの方々から96年の歴史に思いを込めながら挨拶を頂き、その度に、声を詰まらせたり目頭が熱くなる場面が見受けられるなど、心に残る素晴らしい「閉校式」となりました。

引き続き、会場を体育館に移して「感謝の集い」が行われました。オープニングを飾ったのは児童5名による摩周蝦夷太鼓の力強い演奏でした。その後、主催者である吉田裕幸閉校事業協賛会長が挨拶をされた後、参会者を代表して教育長より挨拶をさせていただきました。続いて、児童から歴代PTA会長と特別功労者に感謝状と記念品が贈られた後、前昭栄小学校校長であります奥田泰朗校長の「子ども達の未来に乾杯！」のご発声で、和やかな雰囲気の中「昭栄小感謝の集い」の宴が始まりました。アトラクションでは昭栄小学校卒業生が所属する弟子屈中学校吹奏楽部の皆さんによる演奏を披露されました。また、児童5名と地域や保護者等で構成する摩周蝦夷太鼓保存会の皆さんによる演奏も披露され、その見事な吹奏楽演奏や太鼓のバチ捌きに大きな拍手が送られていました。あっという間に時間は流れ、最後に小澤重則閉校事業協賛会事務局次長の閉式の言葉の後、再度全員で校歌を齊唱して終わりました。

この昭栄小学校の校歌は手拍子の入る極めて稀な校歌で、隔年で開催されている更科源藏文学賞では必ず披露される校歌となっていましたが、来年度からは聞けなくなり、残念でなりません。

現在、多くの市町村では人口減少が大きな問題となっており、本町もついに8千人を割り込む状況となりました。当然、それに並行して児童生徒数も減少の一途を辿っています。そのことにより釧路管内でも多くの小中学校が閉校を余儀なくされ、昭栄小学校もその一つと言えます。

昭栄小学校の保護者の皆さんには開校100年まで頑張ろうということで、「山村留学」等の呼び掛けを学校ホームページを通して行うなど取り組んできましたが、在学する児童や今後入学する子どもたちの教育環境を第一に考え、熟慮に熟慮を重ねた結果、PTAとして「閉校も止む無し」との方向性を打ち出し、地域自治会の協議を経て、昨年の12月8日に南弟子屈自治会臨時総会を開催し、地域としての「閉校」意思が決定されました。12月20日、PTA会長と自治会長の来訪を受け、この際、町長と教育長とで応対させていただき昭栄小の閉校に関する要望書の提出を受けるとともに、これが地域の総意であるとの説明を聞かせていただきました。このような結果を踏まえ、断腸の思いではありましたが町として「閉校」をする決断に至ったものであります。

昭栄小学校は、原野の詩人更科源藏氏が代用教員として務められ、また、氏によって校歌の作詞が手掛けられ、更には多くの人材を輩出してきた誇り高い歴史を地域の皆さんと共に積み重ねてきた学校です。今後、その校風と地域の思いをしっかりと受け止め、弟子屈小学校に引き継いで頂くことになっています。

私事になりますが、昭栄小学校が大正時代の弟子屈尋常小学校熊牛特別教授場だった頃の2代目校長を務めていた祖父の小林六郎に思いを馳せる時、あらためて敬意と感謝の気持ちを抱かずにはいられません。

96年間、昭栄小学校を支えて頂いた地域の皆さんや学校関係者の皆さんに心から感謝申し上げたいと思います。本当にありがとうございます。今日、教育課題は山積しておりますが、本町の未来を担う子どもたちの健やかな成長を心から願っています。

(次回のリレーコラムは小澤委員長です)



教育あっちこっち情報



「弟子屈中学校、第68回文化祭とかべ新聞のこと」

はじめまして。10月1日から教育委員に任命されました金井秀明です。「すべては子供たちの為に」をスローガンに、これから弟子屈町の教育活動のお手伝いをしていきたいと思いますので、よろしくお願ひいたします。

10月11日弟子屈中学校の文化祭を参観してきました。懐かしい（子供3人は弟中卒業生）かべ新聞や合唱コンクールを楽しませていただきました。合唱コンクールで歌声が素晴らしいのは当然ですが、壇上の上り下りや、姿勢などきびきびした動作に清々しさを感じました。かべ新聞もすばらしく、内容だけでなく構成力や取材力に驚かされました。

それが証明されたのが、第28回中学校かべ新聞コンクール道東大会で2-Aが最優秀賞に輝いた事です。本当におめでとうございます。今後も弟子屈中学校の良き伝統として後輩に引き継いでもらいたいと思います。

教育委員 金井 秀明



「弟子屈町総合文化祭・芸能発表会に参加しました」

10月26日、今回で65回目を迎えた総合文化祭の芸能発表会に行きました。私も『リコーダーを楽しむ会』で参加しましたが、演目も和・洋・個人・グループと様々で、総出演者が450人以上、その7割が子供達という年代を超えた活気のある発表会でした。

子供達の発表としては、弟子屈小学校、弟子屈中・高の吹奏楽や川湯ばやし、南弟子屈の摩周蝦夷太鼓、奥春別の獅子舞など学校で取り組んでいるもの他に、琴やバトンや詩舞など、個人で参加している子も多いようです。また、川湯小学校では学童保育の中で練習したダンスを披露してくれました。町の中心部だけでなく、何処に居ても文化的なものに参加できる町だと思える嬉しい一日でした。

委員長職務代理 榎本 悅子



「文化祭」

各小学校の文化祭・学芸会は、いつも嬉しい招待状を頂きます。生徒の皆さん一生懸命プログラムや、案内状を作成しているのが伝わってきます。

平成26年10月19日（日曜日）は3校の小学校の同時開催で、各学校に短時間ずつ伺いました。

今回は美留和小学校の訪問をお話したいと思います。学校に着いた時は学芸会が始まる前の高橋 望さんのピアノソロコンサートの最中でした。地域の方のご厚意でミニミニコンサートが開催されていることは知っていましたが、今回が初めてです。素晴らしいクラシックピアノソロ演奏を身近に聴くことができました。

この様な活動を通して地域の皆様が子供達に注いでいる思いや愛情を感じ、そして色々のジャンルの音楽に親しみ多くの興味が生まれることを願います。

保護者の皆様や地域の皆様と一緒に、感動のひと時でした。

教育委員長 小澤 重



「子供達を守る地域の目」

先日『防犯ボランティアリーダー養成講座』という研修会が札幌で開催され、それにあたり「弟子屈警察署管内」を代表して受講させて頂いた。

当日は全道各署管内から約20名の参加者があり、様々な講師より防犯事例の講習が行われた。特に気になったのは、子供への声掛け事例であり、中でも対象被害が多いのは小学校1年生だそうだ。

そこで驚いたのは、どこの地域でも1年生はランドセルに黄色いカバーをかけ地域の目で子供を見守ろうという考え方だが、それが都会では逆効果になり、黄色いカバーを付けている、イコール1年生と周りに知らしめてしまうという事である。そのため狙われやすくなるという事で、あえてカバーを付けないという地域もあるそうだ。田舎とは言え気を付けねば…。しかし、子供達がどんな大人も信じられない世の中になりつつあるようで、なんか寂しい思いである。



教育委員 菅原 誓之

和琴小学校土曜授業「防災グルメ」に挑戦！

今年度、和琴小学校は文科省の研究事業「土曜授業推進事業」を受け、土曜授業に取り組んでいます。

11月1日、第6回目の講師はテレビでもお馴染みの又キタ・ロワイス代表でフードディレクター貴田桂一さんです。最初に教室で「食育」についての授業が行われ、「食」とは「人が良くなる」という意味で、生産者や食事を作ってくれる人に感謝の気持ちを伝えることが大事」と力説。また、貴田さんが独自に考案した「防災グルメ」についての話もあり、「地震や火山噴火等の災害等の非常時に、地元にある食材だけで、子ども達でも簡単に出来、また、地域の人が仲良くなれるメニューのこと」と説明。早速調理実習室で「防災グルメ」づくりに挑戦。摩周小麦と摩周ポーク、弟子屈産野菜を使った「パンケーキ」と地元産牛乳と野菜を使った「野菜スープ」、そして地元産のカボチャを使った「蒸し煮」を、子ども達と保護者が一緒になって調理。貴田さんのわかりやすく丁寧な説明と素晴らしい調理テクニックに拍手と歓声を上がり、更には途中で、JA摩周湖のマスコット「牛山豚彦」が登場し、子ども達も大騒ぎする場面もありましたが、いつの間にか料理が出来上がり、みんなで楽しく食べることが出来ました。あらためて、地元食材の大切さを学んだひと時でした。



教育長 小林 俊夫

★ ★ 編集後記 ★ ★

今回のコラムより編集者が代りました。前藤原委員のように、中々上手に構成・表現出来ませんが、少しでも皆さんのにとまるような編集をしたいと思っています。どうぞよろしくお願い致します。

また、前藤原委員におかれましては長い間大変ご苦労様でした。（菅原）

